

# 中国語教育の困難について

## —学習目的がそれぞれ異なる上での教育困難比較—

池 玉 杰      三 枝 裕 美

About the difficulty of a Chinese education

CHI Yujie      SAIGUSA Hiromi

### 概 要

“课堂教学是提高教学质量的重要指标，而提高教师的课堂教学能力，化解教学难点是关键，对难点进行分析研究，寻找化解难点对策意义很大。”当然，所谓教学难点，无非是教师与学生双方所遇到的难点。一般来说，研究化解学生遇到的学习难点的论著比较多，可研究学生的学习目的各异，给教师教学带来的难点这个课题比较少。而这个课题确实是教学实践中的难点问题，它困扰着教师提高教学质量。所以，本篇论文以实名制的方式对学生进行学习目的调查为依据，进行了调查结果统计分类、因学习目的各异而所表现出来的学习态度各异现象进行归类分析、教学难点初步归类分析以及如何解决教学难点的研究与探讨，其主旨在于：寻求因学生们学习目的各异所带来的教学难点的解决办法。

关键词语：难点、归类分析、学习态度、学习目的、各异、教学能力、师生互为补充、互为动力、化解难点

### はじめに

中国の著名な中国語教育学者である朱芳華先生が言うには、「教学の質を高めるには、教師集団の支援が必要である。しかしながら、優秀な中国語教師は見出すのが難しい。教科書を手に持って、感覚だけに頼って教え、よって教学中に少なからず遠回りをし、多くの時間と精力を無駄使いする教師たちがいる。その教学効果も教師本人の理想とする効果に全く到達しない。」

いかにしてこの問題を解決するかに関しては、優秀な教師として、朱芳華先生はドイツの教育学者ディーステールベーク（Friedrich Adolf Wilhelm Diesterweg）の『ドイツ語教師指南』の中での論述を引用している。もし教師が「他人を正確な道に導き、他人に真と善に対する渴望をかきたて、他人の素質と能力を最高に発展させたいならば、その人自身がまずこれらの優秀な品質を発展させなければならない。・・・自分の持たないものを人に与えることができないのと同じように、自分がまだ発展しておらず、養成と教育ができていないならば、その人は発展できず、他人を養成し教育することができない。・・・教育者の一つの規則はすなわち、自分を広い意味できちんと養成したければ、その時には自分は必ず一人の真の意味での教育者でなければならない。自分が他人を教育するのに力を尽くすときには、教育活動の範囲の内であれ、外であれ、同時に自己教育に努めなければならない。」中国語教師として、私たちもこの方向に向かって努力しなければならないと考える。教師がどうすれば

ドイツの教育学者ディーステールベークが言うところの規準に達することができるのであろうか。朱芳華先生は次のような助言を与えている。

「一、教師は教学の設計者であり、学習の先導者で疑問の解決者でなければならない。中国では古来より教師の働きにはっきりとした認識がある。すなわち、師たる者は、道を伝え、業を授け、疑問を解くものである。優秀な教学設計と卓越した指導と、一連のユーモラスな質疑がみな学生をひきつける主要な手段である。二、教学経験が豊富な教師は大いに歓迎を受ける。豊富な教学経験があるので、教師は学生の実際の中国語のレベルと学習の困難点をできるだけ早く理解することができ、できるだけ早く教学の重点を設定し教学の困難点を解決することができるのである。よって教師の教学経験は必要不可欠な条件となる。三、教師は確かな専門的基礎と広範な関連知識を備えていなければならない。四、教師は望ましくは学生との交流と意思疎通の達人であること。周知のように、情感の要素は学生の学習において無視できない働きがある。情感の要素は多くの方面の内容を含み、そのうち教師と学生の情感の築き上げは、教学過程と結果に重要な影響を及ぼす。五、これらの現象は教師が『複雑な』問題を『簡単』にする能力を持っているべきであり、生き生きとした言語表現能力を持っているべきである。授業で話す言葉、教授方法と技巧に自己の独特のものを持っているべきである。」

朱芳華先生のこれらの助言は要求が高いように見えるが、実は教師として備えていなければならない最低限の条件である。これに反して、「教学設計が活力に乏しく、言語表現が生き生きと活発でなく、書いてある通りに読み上げ、学生と相互に影響しあうことがなく、良好な学習環境を作り上げることができない」のは、授業の時に準備してくるのではなく、備えなくして戦いに臨み、いいかげんで、適当である。もし一つの大学でたとえ一人の教師でもこれらの現象があるならば、大学と学生たちに計り知れない悪影響を与えるであろう。私たちは皆知っている。一つの大学が人々に注目されるかどうか、より多くの学生たちを惹きつけることができるかどうかは、主に以下のことにかかっている。

一つには教学科目の設定が科学的合理的であること。

二つには教学設備が完全で、先進的で、教学研究の成果が積み重なっていること。

三つには高レベルで、影響力を持ち、資質と能力に優れる教師陣がいること。

四つには毎年優秀な学生達を養成できること。

この四か条のうち、我々は三、四条が非常に重要であり、一つの大学で一挙手一投足が全局面に影響する働きを占めていると考える。疑いの余地なく、大学の中では主に教室で教学が行われているので、教室の中での教学が教学の質を高める重要な指標であり、教師の総合的教学能力を検証する主な場所でもある。更には学校の知名度を上げ優秀な学生を養成する場所である。それゆえ、三・四条が最も重要である。当然、いかなる事物も両面性を持っている。これは疑いなく最も一般的な哲学的観点である。

だが、本論でいうところの両面性とは、すなわち、大学の中では教師と学生の双方を指す。お互いが相互に依存し、相互に補い合い、相互に影響し合って前進していくべきである。しかし、大多数の状況下では、往々にして双方がそれぞれ独立して、教師は教えることだけに力を注ぎ、学生は学ぶことだけにかかわる。教えてどうだったか、学んでどうだったかに至ってはお互いに関与しない現象があるようだ。ゆえに、授業でお互いに依存し、お互いに補い、お互いに影響しあうということがやや薄弱である。教学の困難点の研究も多くは学生が学習する上での困難点を主としていて、教師の授業

での教学能力を高め、教学の困難点を解決するという事を主要な問題として研究がなされることは比較的薄弱である。

実は、教師の授業での教学能力を高め、有効的に教学上の困難点を解決することは教師と学生双方がお互いに依存し、お互いに補い、お互いに影響し合い、お互いに高めあうことの鍵となっている。よって、「教師として不断に教学上の困難点を分析し研究し続け、かつ困難点を解決する対策を追い求めることの意義は非常に重要となる。」

教学上の困難点と言えば、両側面、すなわち「その一、学生の学習過程で遭遇する困難点、その二、教師の教学過程で遭遇する困難点」にほかならない。日本人学生にとっては中国語を学習する上で遭遇する困難点はおおよそのところ「中国語を学習することの苦難に対する認識不足。リスニングとスピーキングが弱く読解能力と釣り合いがとれていない。より容易に母語の干渉を受けて誤差が出現する。その誤差とは（書写の誤差、音声の誤差、語彙の誤差、文法の誤差）を含む。」これらの学生が学習過程で遭遇する困難点に対しては、どれもみな教師からなされる適当な教学方法と技巧によって不断に解決することのできるはずの問題である。それゆえ、これらの困難点は教学経験があり、知識が豊富で、責任感があり、熱心で辛抱強い教師にとっては、決して解決するのが難しくない。同時にこれは教師の教学上の困難点と称することもできない。

本論で検討するところの教師が教学上で遭遇する困難点とは以下のような現象である。学生たちは皆零から中国語の学習を始めるが、半年か1年あるいはそれ以上の期間勉強した後、レベルの高い学生とレベルの低い学生を分けて数字で比較した場合、成績が70点80点以上の学生が比較的多く、成績が70点以下の学生はあまり多くない。これらの学生の人数はあまり多くないが、しかし、彼らの学習意欲は低く、甚だしくは学習意欲がない学生もいる。かれらのこのような学習状態と行為は、確実に教師に教学上の少なからぬ難度を増加させる。同時に一定の程度で教学の進度と順調な進行にも影響をもたらす。同じ大学生としてどうしてこのような態度をとれるのであろうか。この種の現象が生じる原因を解決するために、さらにはこの教学上の困難点を解決するために、私たちは学生に対して実名方式で中国語を学ぶ目的の調査を開始した。このようにした主旨は、この教学上の困難点を解決する方法を探し求めるためである。

## 一、学生に対する中国語学習目的調査の結果分類

今回の学生に対する中国語学習目的の調査は、2回に分けて実施した。まず一年生の学生に調査を行い、それから2・3・4年生の学生に調査を行った。よって二部に分けて調査結果の統計分類を行う。

### 1、二・三・四年生の学生に対する調査結果の統計分類

今回の2・3・4年生の学生に対する調査の総人数は50人であり、全員に対する調査は行えなかった。なぜならば13人は今中国に留学中であり、調査当日に各種の要因で授業に来なかったために調査に参加できなかった学生もいるからである。しかし、調査対象は50人となり、すでに全員の半数以上を大きく超えている。よってこの調査結果は有効とみなすべきである。以下は調査結果の統計分類である。

- (1) 「就職と将来の仕事に役に立つ」という目的を持つ学生は23人。
- (2) 「中国語が好きで、中国語が面白い」という目的を持つ学生は10人。
- (3) 「中国文化に興味がある」からという学生は8人。
- (4) 「中国経済が発展している」からという学生は8人。
- (5) 「中国の歴史が好きだ」からという学生は4人。
- (6) 「英語も中国語も学ぶ」という目的を持つ学生は7人。
- (7) 「高校で勉強したことがある、世界で一番使用人口の多い言語である、たくさんの中国や台湾の友人がいる」からという学生はそれぞれ3人。
- (8) 「先生の発音が好きだ、先生の発音がきれい、中国語の発音が美しくて面白い」からという学生がそれぞれ2人。
- (9) 「中国音楽が好きだ」からという学生が2人。
- (10) 「本人が中国語の発音が良くて先生に誉められた、台湾映画が好き、先輩の影響を受けて、中国料理が好き、中国に旅行に行きたい、パンダが好き、漢字を使って勉強するので簡単、中国人の生活が好き、上海が自分の第二の故郷である、アジアの言語に興味がある、中国文学が好き、留学費用が安い、日本人の中国人に対する見方を変えたい」からという学生がそれぞれ1人。

## 2、一年生の学生に対する調査結果の統計分類

私たちの大学では以前は二年生になるときに専攻を選択していたが、今年から一年生の時に専攻を選択するように変更されたため、一年生の学生つまり初めて中国語を学ぶ学生は二種類に分かれる。一つは中国語を自分の専攻とする学生で、もう一つは中国語を第二外国語として学ぶ学生である。あわせて36人いる。その調査結果の分類は以下のとおりである。

- (1) 将来の仕事に役立てたいと思っている者15人。
- (2) 中国語を用いて交流をし、同時に話せて書けるようになりたい者7人。
- (3) 中国に興味を持っている者5人。
- (4) 中国経済が発展しているから中国語を勉強する者5人。
- (5) 中国語が世界で最も多く使用されている言語だから中国語を勉強する者6人。
- (6) 知り合いの中国人としゃべりたいから中国語を勉強する者4人。
- (7) 旅行や留学がしたくて中国語を勉強する者4人。
- (8) 書道に興味があって中国語を勉強する者2人。
- (9) 以前中国に行ったことがあり、中国語を話したい、高校の時に学んだことがあり面白かった、中国文化に興味がある、各種の中国語コンテストに参加したい者それぞれ1人。

## 二、「学習目的が異なるために学習態度に異なって現れる現象」に対する分類分析

学生の学習目的と動機は、外国語学習の成功の根本的原動力であり、教師の教学が成功するかどうかの主要な要素でもある。学生が中国語を勉強する進歩の速度が速いか遅いかは、教師の教学水準の高低と方法、技巧が適切であるかの他に、不可欠の要素と鍵となる点は、当然学生の学習動機と目的



が明確で正確であるかどうかにかかっている。もし学習者自身の学習目的及び学習態度が不正確ならば、もとより強烈な学習願望、正しい態度と十分な学習情熱に欠けており、よって客観的条件がどれほど優れていても、着実に勉学を最後まで堅持し続けるのは難しく、進歩が速く学習の成果が出せるわけがないのは言うまでもない。なぜならば外因はただ条件にすぎず、内因こそが効果を決定する肝心な要素だからである。

今回の学習目的の調査分類を通じて、目的がそれぞれ異なることと、学習態度、積極性と持続性の維持、学習成果の高低、知識欲の強弱等の学習状態とは直接関係にあることが十分見てとれる。以下に学習目的がそれぞれ異なることによって現れる学習態度の違いに対して初歩的分析を行う。この分析は一・二・三・四年生の調査の統計結果を集中する方法で分類分析を行うものである。今回の調査は学生に実名を書かせる方式で行ったため、それゆえ学生たちが学習目的がそれぞれ異なることにより現れる学習態度がそれぞれ異なる現象に対して行った分類分析は根拠のあるものであり、基本的に事実に基づいている。以下は分類分析の結果である。

- 1、「就職のためや将来の仕事に役に立つ、中国語が好きで中国語が面白い、中国文化に興味がある、中国経済が発展しているのを目にした、日本人の中国人に対する見方を変えたい」という学習目的を持っている者は、精一杯もっと多く中国の一切を理解したいと思っており、毎分ごとの学習時間も非常に大事にする。

その学習態度は以下のように現れる：学習が積極的で主体的、学習と休息の時間を厳守する、毎回授業に出席する、まじめに予習、復習、練習問題をし、宿題を完成する、先生と話すのを好み、中国留学に対して強烈な願望を持っている、コースが組織する中国文化に関係のある活動に積極的に参加する、各種の中国語コンテストに積極的に参加する、中国語を学び始めた当初から、その学習態度はきちんとしており、知識を求める欲望が強烈で、中国語の知識の学習に対する情熱に満ち満ちている、できるだけ速く大量に中国語の言語と文化をマスターしたいと願っている、積極的主体的に中国人留学生と友人となり、進歩が著しく、学習成績が優秀である。同時にその学習目的も維持したまま変わらない。

- 2、「中国の歴史が好き、英語も中国語も勉強する、中国語は世界で最も使用人口の多い言語である、高校で学んだことがある、中国人の友人とおしゃべりしたい、先生の発音が好きで、先生の発音をきれいだと思う、中国語の発音がきれいで面白い」等の学習目的を持っている者は、比較的多く中国の一切を理解したいと思い、比較的学習時間を大切にする。

その学習態度は以下のように現れる：学習が比較的積極的で主体的で、学習と休息の時間を厳守し、完全には毎回授業に出席できないが、比較的まじめに予習、復習、練習問題をし、宿題を完成させる状況はあまり良くない、比較的先生と話をするのを好む、あまり中国に留学したいと思わない、コースが組織する中国語及び文化に関係する活動に参加することを望む、各種の中国語コンテストにあまり積極的に参加しない。中国語を学び始めた当初からその学習態度は比較的きちんとしており、知識欲は比較的強く、中国語の知識を学習する情熱は比較的満ちており、できるだけ速く大量に中国語の言語と文化をマスターしたいと比較的希望している、比較的積極的主体的に中国人留学生と友人になり、進歩は比較的顕かで、成績は比較的良好い。その学習目的も

基本的に維持して変わらない。

- 3、「上級生の影響を受けた、中国料理が好き、中国に旅行に行くのが好き、パンダが好き、中国人の生活が好き、漢字を用いて学習するので簡単」等の目的を持っている者は、もっと中国の一切を理解したいとあまり思わないし、学習時間もあまり大事にしない。

その学習態度は以下のように現れる：学習はあまり積極的主体的でない、学習と休息の時間をあまり守らない、学校の規定の範囲内で、つまり一学期中にどの学生も4回は欠席してもよい、この規定に対し、これらの学生は非常に遵守し、そののち更にいろいろな理由をつけてもう一、二回欠席する、そのためにこれらの学生の出欠状況はあまり良くない。まじめに予習、復習、練習、宿題の完成ができない、あまり先生と話さない、中国に留学したいという願望がない、基本的に中国文化と関係のある活動に参加したくない、各種の中国語コンテストに参加したいと思わない。中国語を学び始めた当初より、その学習態度はあまり正しくなく、知識欲はあまり強くなく、中国語の知識を学びたいという情熱はあまりない、できるだけ速く大量に中国語の言語と文化をマスターしたいとはあまり希望していない、あまり積極的主体的に中国人留学生と友人にならない、進歩があまり顕かでない、学習成績はあまり良くない。

- 4、私たちが行った調査は全員に行えなかったため（調査を受けていない学生の原因は、学生本人が各種各様の理由で、調査当日に出席しなかった）、それゆえ私たちの観察と理解によると、調査を受けていない学生の中に、一部学習目的が不明確の学生がいることが分かった。たとえば、

- (1) 本人の意思と理想ではなく、保護者の意思と理想である。
- (2) 中国語は簡単に学べると思っていたが、実際に勉強してみると本人の感覚と異なる。
- (3) 英語の成績が低く、他の言語も学びたくなく、中国語を学ぶしかない。（このような学生はまったくどうしようもない）
- (4) 中国語が面白く、ちょっと学んでみる。
- (5) 大学を遊ぶところと考えており、来たければ来るし、来たくなければ来ない、完全に自分を大学生とはみなしていない。

これらの学生の学習目的は不明確かあるいは不正確で、よってもっと中国の一切を理解したいとは思わないし、学習時間を大切にしない。

その学習態度は以下のように現れる：学習は積極的主体的ではなく、学習と休息の時間を守らない。出席率はかなり低く、一学期に半分を超えるほどの授業にしか出れない、甚だしくは三分の一の授業にしか出れない学生もいる。不真面目で非主体的で、甚だしくは予習、復習、練習、宿題をしない。しょっちゅう嘘をつく。授業に2・30分甚だしくはそれ以上の時間遅刻する。授業中居眠りをしたり、おしゃべりしたり、携帯メールを出すなど不正当な行いが時に発生する。本コースが挙行する中国文化と関係のある活動に参加しない。各種の中国語コンテストにはもっと参加しない。中国語を学び始めた当初からその学習態度は正しくなく、知識欲がなく、中国語の知識を学習することに対して情熱がなく、できるだけ速く大量に中国語の言語及び文化をマスターしたいとは思わない。授業の内容が少なければ少ないほど良いと願う、学習時間が短ければ短いほどいいと思う。強い学習原動力と興味に欠け、進歩は遅く、学習成績は非常に悪い。

### 三、教学困難点の初歩的分類分析

中国語教育学者の朱芳華先生はこう考える「第二言語学習者が言語を学習するのに影響する情感的要素は、主に動機（目的）と態度である。一般的に言って、良好な動機（目的）は常に良好な態度を伴う。かつそれによって良好な学習成績をおさめる。心理学の角度から見ると、動機（目的）が駆り立てるのは人々の活動の一種の動因と力量であり、個人の意図、願望、心理的衝動あるいは達成しようとする企ての目標等を含む。学習動機（目的）は一種の比較的広範な社会性の動機（目的）であり、直接学生が学習活動を行うのを推進する一種の内部動力である。学生の学習動機はすなわち彼らの学習需要であり、この種の需要は生活あるいは本能からくる需要とは異なり、比較的高級な需要に属するものである。まさしくこの種の高級な需要が学生の持続的な学習への興味をかき立てるのである。

態度は動機（目的）を構成する主要な要因である。態度は個体が客観的事物に対する一種の反応であり、情感的な好悪並びにそれによってとられる行動の傾向性である。態度は学習効果に相当大きな影響を与える。」ここから見てとれるのは、目的（動機）と態度はお互いに補足しあって成り立っており、お互いに依存し、お互いに影響しあっていることである。私たちが学生の学習目的がそれぞれ異なることからもたらされる学習態度の現れがそれぞれ異なることに対して行った分類分析から見ると、「学習目的が明確な学生は中国の言語、文化、歴史と社会を好み、授業時間の割り振り、教材、教師に対して、容易に受け入れるかあるいは好み、積極的に中国に関する情報を受け入れ、積極的に教師が教える知識と技能を受け入れ、教師が出した指導的な意見を喜んで聞き入れ、教師が採用した教育的措置に対し積極的に合わせ、かつ教師が模範的に示した働きかけの影響を容易に受け、学習は主体的で、情熱は強く、切実に中国語をマスターしたいと望み、良く中国語を用いて人と交流することができ、学習は努力し、まじめで、根気があり、困難を恐れず、学習効果も非常に良い。」

以上のこれらの現れは、客観的に教師の教学に大きな威力を発揮する知恵の空間をもたらす。これに反するのは教師が教学を行う上での困難点となる。次に私たちは「本文二、学習目的がそれぞれ異なるために生じる学習態度及び表現の違いに対して行った分類分析」の中の第3種と第4種の現象からだけ、教学困難点の初歩的分類分析を行う。

#### 1、「第3種の現象の学生は、主に学習目的が単一で、範囲が狭いためである」。

当然たとえ学習目的が単一で、範囲が狭くても中国語の学習に目的があると言える。しかし、私たちの長年の教学観察によると、このような目的の学生は中国語を学習する積極性と情熱を長く維持することができず、とぎれとぎれで、時には高く時には低く、冷めたり熱くなったりする。会話の授業の時、発音の際口を開けるのをあまり好まず、大きな声で発音するのも望まず、しょっちゅう困難におじける気持ちを表す。それゆえ、学んだ中国語の単語と言語はおおむね半分はできず、もう半分はすぐに忘れてしまうか、発音が正しくない。その他の専門科目や語学科目の授業に出るときも、学習態度はいいかげんで、うわの空である。このような学習現象は卒業までずっと続く。このような学習態度と表現は、教師の教学にまちがいなく大きな困難をもたらす。

困難点一：授業のとき、しょっちゅう教師の注意力を分散させ、教師に教学の持続性を維持させることができない。彼らの学習態度がその他の学生に影響を与えるため、教師はいつも教学内容を中断して、その良くない学習態度を正さざるをえない。

困難点二：教師が学習態度の指導を行うのが比較的困難である。なぜならばその本人があまり教師との意志疎通を望まないからである。表面上は教師の指導を受けたいと願っているように見えても、実際の行動は直らない学生もいる。

困難点三：大学生はすでに成年であるために各方面で基本的に独立状態にある。よって、学生の大学での学習等の事情は、基本的に家庭と無関係である（学費は基本的に除外する、なぜならば大部分はやはり保護者が支払っているから）。重大な問題がおこってはじめて保護者と意志疎通を行う。このような状況の下では、教師が一方的に学生の学習態度に指導を行うのに頼るだけではその力は弱い。効果も人情が薄い。同時に教師も比較的疲労を感じる。

困難点四：学習成績と卒業は緊密に関連していて、両者は不可分である。学生の学習成績が良くないために、卒業の要求を満たすのは難しい、しかし本人は卒業したいと思っている。これは教師にどんな規準でその卒業可否を判断するのかに難題を増加させる。

## 2、「第4種の現象の学生は主に明確な学習目的がない」

このような学生は、中国語学習を始めたときから基本的に積極性と情熱がない。学習態度は低迷し、授業中しょっちゅう居眠りをし、遅刻や欠席も日常茶飯事であり、このことに対して本人は恥とも思わず、反対に全く気にしない。出席回数は基本的に三分の一を維持できるだけであり、甚だしくは中にはある科目で出席回数が三分の一さえも維持できない学生もいる。授業に来れない理由も多種多様で、教師に受け入れと理解させる方法がない。しょっちゅう教科書を持たずに教室に入るかあるいは授業が始まってわずか1・2ヶ月で本をなくしてしまう。このような学生は学習に対して「坊主である間だけは鐘をつく」（この文の意味は、人は何のために生きているのかを知らず、無為に日を送るしかない）

このような学習態度が教師にもたらす教学困難点一：本人が半分以上の出席回数維持できないため、それゆえ、たまに授業に出た場合、授業で学んだ内容を復習する際少しもできず、教師の要求に従ってみんなといっしょに内容を復習するのを完成させるのは全くできない。しかし、教師はわずか一時間半の授業の中で、このような学生にすでに学んだ内容を補習することはできず、授業の後では教師も学生も双方が抜けた授業内容を補習する時間もない。いわんや、このような学生一人一人が抜けた授業内容は皆異なっており、教師にとってみれば授業後の補習の困難さにさらに困難を加えている。なぜならば確かに余分な時間がないからである。

困難点二：このような学生と意志の疎通を図るのは非常に困難である。なぜならばかれらは基本的に教師と意志を疎通したいと願っておらず、たとえ願っていたとしても、教師と率直に相対しようとしなからである。これは教師に問題点を把握し有効な戒めと指導するのを難しくさせている。

困難点三：持続して不断に教学課程が定める内容に従ってまじめに教育を受けなかったため、従って学校が定める学習過程の内容を基本的に掌握できず、よって学校で授業評価アンケートを受けるとき、このような評価が出てくる。「内容を理解できない、内容が難しい、内容が多すぎる、興味はますます低下し、学習が面白くない等」の評語である。実はこのような評語を書くのは、学習目的が不明確で、それにより学習態度が正しくない学生にとっては、決して嘘を言っているわけではなく、彼らが言っているのは本当のことである。肝心なことは、彼らがこのように感



じるの原因は教師にあるのではなく、彼ら自身にあることである。教師として言えば、最も遺憾で最も理解できないと感じるのは、「このような学生はなぜ自分の問題のありかを認識できないのであろうか、まさか自分が多くのお金を持っていて高い授業料を払っているのではあるまい。高い授業料を払って大学に来ているのは、遊びほうけるためだけではあるまい。」

困難点四：このような学生が書いた授業評語に対しては、教師からすれば解決のしようがない。なぜならば各教師が教える学生は、各学年で3，4人あるいは2，3人だけではないからである。よって教師は同一時間帯に同一教科科目の中で、勉強したくない者あるいはあまり授業に出ない者に基づいて、特殊な教学计划を制定する方法がない。

困難点五：このような学生の成績は非常に悪く、しかしまたとても卒業したいと思っている。その原因の大概は「学習目的が不明確なため、いっそう早く卒業したいと思っているか、あるいはすでに遊びつくして、場所を変えたいと思っている。」教師としては学校が定める卒業規準に従えば、卒業を許すべきではない。しかし、各種各様の原因の存在により、卒業させなくてはならない。だが教師はどうやってこのような学生の成績を判定するのだろうか。もし本心に逆らって判定すれば彼らは卒業できる。しかしこのようにした後、その他の学生にマイナスの影響を与えるかもしれないことが心配でもある。もし実際の学習成績に照らして判定すれば、彼らは卒業できない。しかし、卒業を延期させれば、また良くない学習態度と行為が他人に影響し続けるのも心配である。どうすればよいのだろうか。これは本当に教学の一大困難点である。

#### 四、いかに教学上の困難点を解決するか

周知の通り、「教学の困難点は多種の要素が集まってできるものである。」言い換えれば困難点は主に二つの方面に現れる。すなわち「教師と学生」である。日本人学生に対して行う中国語教学の困難点からだけ見ると、主に以下のように現れる。(1) 卷舌音の子音の発音の位置の間違ひは矯正するのが難しい。(たとえばzhi, chi, shi, r) (2) 会話の授業の時、口を開けたがらない。いつも黙って語らず、成り行きをみて、堅苦しく、気が弱く、たとえ先生にあてられてもある者は口を開けたがらない様子が見られる。(3) みんなの前で話すのが苦手である。みんなの前で大胆に自分の長所を表現するのはなおさら言うまでもない。授業の外でも外国人と交流するのが苦手である。

その困難点(1)が存在するのは、母語と中国語の音声方面の差異のためである。困難点(2)と(3)が存在するのは、民族の性格と文化習慣の要素の影響で生じているからである。だが、ただ日本民族からすると、学習を好み、学習に秀でている民族である。

しかし同時に「島国根性」の気質を持ち、性格が内向的で、「恥」の意識が濃厚で、言動が慎み深く、婉曲で、含蓄に富み、極力愚かであることや率直であることや表に出ることを避ける民族である。授業での具体的な現れは基本的には、まず自分が言い間違えないかどうか、もし言い間違えたら、他の人は笑うだろうか、自分は面子を失うのではないかということを考慮する。

これらの懸念があるために、言わないでいいなら言わないことにし、後で言えばいいなら後で言うことにし、まず他の人のを聞いて、自分の番に回ってきてから話す等々の保守的態度をとるしかない。だが、これらの困難点は教師の教学上の困難点ではあるけれども、しかし、決して解決が難しい困難点ではない。それではどうやってこれらの困難点を解決するのか？長年に渡る教学体験から得られた

理解は以下のとおりである。

- (1) 教師個人の専門知識は豊富でなければならないだけでなく、知識面も広く、知識構造も合理的でなくてはならない。そうしてはじめて教室での教学において最も効果を発揮するのに役立つことができる。
- (2) 教師は一定の専門的知識水準を備え、母語（すなわち学生の第一言語）の言語の特徴と中国語の言語の特徴との差異に対して、人に説明できるくらい事情に明るく、具体的に対応する措置と方法を持っていなければならない。そうしてはじめて音声の差異に起因して学生にもたらされる発音の困難点及び教師の教学の困難点に対して、焦点を合わせて合理的に解決することができる。
- (3) 教師個人が教える学生の民族性及び文化習慣を必ず理解しておかなければならない。そうしてはじめて有効的に相応する教学技巧を採用し、学生が学ぶ外国語の言語の習慣や人の個性等の方面に近寄って導き正すことができ、さらには次第に適応した理想の程度に達することができる。
- (4) しょっちゅうみんなに中国人の生活を反映し、中国の文化風俗等に関するビデオやDVDを見せる。目的はみんなにできるだけ感性面で良い影響を受けさせるためだけでなく、異なる視点と角度から中国文化の魅力を感じとらせるためでもある。こうして次第に自分の民族文化及び性格の束縛から解放され、ゆっくりと中国文化と中国人の性格の中に溶け込み、さらには不断に勇気を増加させ、会話交際能力を高める。
- (5) 日本人教師としては、自己の民族の学生の前で中国語を教授する時、できるだけ明確で大胆に模範的働きをする。たとえば、発音を教える時、声は大きく、情緒に満ち、積極的情熱的であること。授業中、学生たちの中を歩いて、常に学生との近い距離を保つ教学に役立てる。自分が体得した中国語の感銘でもって学生を感化し、啓発し、良い影響を与える。そうしてみんなの情熱を結集し、堅苦しい雰囲気と気弱な心理状態を消すのである。この点では中国人教師にもあてはまる。目的は学生に教師との心理的距離感を消し、文化習慣の障害を消すために一定の働きをするためである。
- (6) 発音の位置の間違いを矯正する時、教師はまずみんなに正確な発音の位置を見せ、それから必ず一人一人の発音を正すべきである。そのわずらわしさを厭わなければ、一つの事から類推して多くの事を知る。小さなグループを単位としてはじめ、しだいに個人の単位とし、適当な音声練習を行う。たとえば、典型的な音声の特徴を持つ文を練習し、短い文や詩歌を朗読し、中国の歌を歌う。コース内で中国語コンテストを行い、学外の各種の中国語コンテストに参加するよう積極的に奨励する等等。このようにしてからのおのちの効果は両方面にある。すなわち、発音の間違いを正すのみならず、みんなの前で話す勇気を鍛え、同時に自信も増す。
- (7) 教師として、個人の人格的魅力は非常に重要であり、学生も非常に容易に教師の人格的魅力の影響を受け入れる。当然、人格的魅力は表に現れるものだけでなく、もっと重要なのは、内心にある。言いかえれば、知識構造及び見聞と修養である（修養には以下のものが含まれる：情熱があり、責任感があり、人となりが誠実で信頼でき、学生を熱愛する等）。教師の人格的魅力をもって、不断に学生を感化し、影響を与え、学生の中国語と文化に対する親近

感を増強させるのも一種の良い教学手段だと言える。

上に述べたこれらの教学上の困難点を解決する教学手段と方法及び要求は、学習目的が

「1、就職と将来の仕事に役に立つ、中国語が好きだ、中国語がおもしろい、中国文化に興味がある、中国経済の発展を目にして、日本人の中国人に対する見方を変えたい。

2、中国の歴史が好きだ、英語も中国語も学びたい、中国語は世界で使用人口の最も多い言語である、高校の時に学んだことがある、もっと多く中国語を用いて中国人の友達とおしゃべりをしたい、先生の発音が好きだ、先生の発音がきれいだ、中国語の発音がきれいで面白い」等の学生に非常によく適用できる。

これについては、長年の教学実践で、すでに私たちは深くそのうまみを感じ、さまざまな程度の教学成果を受け取っており、不断に次々と多くの優秀な学生を養成してもきた。これらの学生は何人かはまだ在学中であり、何人かはすでに卒業した。しかし、彼らがどのような環境に身を置いていようと、継続して優秀な効果を発揮し続けており、その他の学生に対して良いお手本となっている。学校が社会に良い名声を得るのにも貢献している。これは私たちのコースの教師が優れているといえる教学成果であり、さらには私たちのコースの教師を鼓舞し、ひきつづきこの仕事を良くなしとげる原動力でもある。

当然、上に述べた教学の困難点を解決する教学手段と方法及び要求は、学習目的が「第3種の現象を持つ学生」の身の上に使用すると効果はあまり顕かでない。とりわけ個別の学習目的の「第4種の現象を持つ学生」の身の上に使用すると、効果は顕かではない。本論が集中的に検討するのはとりもなおさず、「第3種の現象と第4種の現象を持つ学生」が教学にもたらす困難をいかに解決するかということである。

「第3種の現象と第4種の現象を持つ学生」は多数には属さないけれども、しかし他の学生と同様に合法的な身分で私たちの大学の正式な学生としてその受けるべき大学教育を受けている。このような学生に対して私たちは教師として言えば、彼らを見捨てる権利はなく、自由気ままにさせておくことはいっそうできない。私たちは当然教育し、導き、発奮させ、その学習目的と態度を正し、さらに進んで正しい学習目的と態度を持たせ、持続的な学習への情熱と積極性を維持させ、大多数の学生と歩調を合わせ、最後には卒業できる合格点の成績でもってみんなといっしょに卒業させるべきである。だがこれを実現しようとするとは非常に難しい！

### 1、困難点一：第3種の学習目的と学習態度を持つ学生

学習自身は双方向性を持つと同時に一方方向性も持つ。大学生として言えば、大学の中での学習行動は双方向性であるべきだ。言い換えれば、教師が教え、学生が学ぶ。教師と学生はお互いに補完しあい、お互いに牽引しあい、双方向でお互いに影響し合い、お互いに発奮させ、向上させ、教えることと、学ぶことへの情熱と激情と勇気と自信を高めあう。こうしてはじめて予想していた教えることと学ぶことの理想的な効果を得られる。これに反すればそうはいかない。それは以下のように現れる：学習目的が単一で、狭く、相対的に言ってその学習への情熱と持続性はずっと不断に維持することができず、教師がたびたび導き、注意を促し、激励したのち、持続性はやっとある一定の期間保たれるが、そののちはまた停滞状態に陥るか、あるいは再び原点に戻る。

それゆえ、教師は絶えず彼らの学習態度に注意をしなければならず、いったん彼らの学習態度がま

た低迷するか、あるいは原点に戻ったのを発見したら、ただちに導き、注意を促し、激励しなければならない。一年生からはじめて四年生にいたるまでこのように循環往復し、教師も学生も双方が疲労を感じ、とりわけ教師側はより困り苦しみ、どうしようもないと感じる。結局どのようにすればその学習状態を長く保ち、連続して絶え間ないようにさせることができるのだろうか？目下のところ、もっと良い教学の技巧と方法はまだない。ゆえに、教師のみなさんともっと良い困難点の解決方法を検討し、交流したい。

## 2. 困難点二：第4種の学習目的と学習態度を持つ学生

「第4種の学習目的と学習態度を持つ」学生は、学習目的が不明確で、学習態度が正しくないこと以外に、その心理と思想面で強烈な「大学生活は最も自由で快樂の時期であり、遊びに対する興味が学習に対する興味に大幅に勝っている考えかたと態度」を持っている。

学習態度上に現れた行いだけでも、でたらめに単位をとる、予習しない、復習しない、遅刻する、授業をさぼるなどは少しも珍しくなく、すっかり慣れっこになっている。彼らは成績が優秀であろうとなかろうと、本物の才能と身についた学問をマスターできるかどうかにかかわらず、なんとか卒業できて大学卒の卒業証書を手に入れられさえすれば良しとする。このような人がこのような思想と態度をとるその根源は二種類ある。：その一は、日本は現在の大学制度で彼らに十分な条件を提供している。たとえば

- (1) 学校の規定で每学期学生は4回欠席する権利があり、かつ試験を受けさせなくてはならない。もし欠席が4回を超えたら、欠席届を提出しさえすれば、試験を受けさせなくてはならない。
- (2) 欠席届の理由は多種多様で、欠席届の理由の信頼度が低い学生もいる。しかし、他人のプライバシーを尊重するために、教師は仔細に問い詰めることもできない、よってその理由の正当性を信じるしかない。その二は、日本の大学教育は比較的自由にゆとりがある学習の雰囲気創造することを強調しており、学生に個性に従って自由に発展させている。実は大学生が成年になってお金を体験したばかりで、新鮮な事物に対する獵奇心が非常に強いことを知らない。しかし、世界観がまだ未成熟なために、各種の事物に対する識別能力が低く、非常に容易に良くない要素の影響を受ける。だが大学自身は基本的に学生に道德の伝統的教育を行わず、人としてあるべき規範を把握できないようにさせている。よっていくつかの正しくない行為が出現する。これは教師の教学に困難点を増加させているだけでなく、その他の学生にも良くない影響を与えている。

### いかに「困難点の二」を解決するか？

「第4種の学習目的と態度」を持つ学生の人数は多くはなく、個別の現象に属するが、しかし私たちは見捨てるか、あるいはかまわずにほうっておき、自由に放任することもできない。いかに解決するか、私たちの初歩的考えかたは以下のである。

- (1) 「1・2・3種の学習目的と学習態度を持つ学生に対する教学方法」を継続して用いる。
- (2) コース内の各科目の担当教師（非常勤講師を含む）が常にこのような学生の学習状況に対してお互いに意思疎通を保ち、意見を交換し、学生の学習態度の変化に基づいて不断に指導方法と対策を調整する。



- (3) 学生の保護者と意思疎通を図り、定期的に意見を交換することの実現をめざして努力し、学校側と保護者の双方の力でもって、その学生の良くない学習態度と行為を正し、みんなといっしょに卒業するという目的を達成する。
- (4) 本コースを選んだ一年生の新入生に対して簡単な中国文化知識のテストを行い、同時に学習目的の調査を行う。できるだけ優れた者を選び採る。(学習目的が不明確で正しくない学生に対しては、他の言語コースに改めるよう勧める。)

上に述べた4種の考え方のうち「1」は「第4種の学習目的と態度を持っている学生」に対してはすでに試みた。だが効果は顕かではない。第2種は目下のところコース内の専任教師の間の意思疎通を少し行っただけで、徹底的ではなく、全部が全部意図したようではない。改正を加え向上を図る必要がある。第3種と第4種も目下のところ、教師の一方通行の願いと考えかたにすぎず、試みることができるかどうか、効果がいかなるものか、まだみな未知数である。まず多方面の(学校側と保護者側)の同意と協力を得ることが必須であり、そうしてはじめて実施できる。

## おわりに

上に述べた『中国語の教学困難点—学習目的がそれぞれ異なる中での教学困難点の比較』の著述課程で、私たちは多くの新しい理解と感想と希望を得た。まだ成熟してはおらず、私たち個人の狭く偏った見識にすぎないけれども、しかし、私たちはやはりそれらを本論の結語として書いて、各有識者のみなさんの参考に供し、教えを請う。

1. 大学は高等学府として、当然「伝道授業解惑也」を主要な目的とすべきである。いわゆる「伝道」とは「聖賢の道を伝える」ことを指す。「聖賢」とは道德知能が非常に高い人を指す。「聖賢の道」とはすなわち「聖賢者」の道德規範となりうることを指す。これは昔の教訓ではあるけれども、しかし、今の時代でも依然として人としてののっとるべき原則であることを失ってはいない。現在の大学は「授業解惑」は疑う余地がない。しかし、「伝道」はどうだろうか？私たちは欠けている点が多いと感じている。よって、私たちは大学が授業も行い人も育くまなくてはならないというこの道理に基づいて、道德規範教育を強化し、大学生が一人一人みな意識的に「聖賢者」の道德規範にのっとって人となりをつくりあげていかなるよう希望する。
2. 日本の大学は個性の発揮を提唱し、ゆったりとした楽しい学習雰囲気を創りだしているけれども、しかし、大学は結局のところ高等教育学府であり、授業を行い人を育む重要な場所であり、幼稚園ではなく、ましてや娯楽場所ではない。学生たちは大学の校門をくぐりさえすれば、青年であってしかるべきである。青年と青少年は世界観、考えかた、問題を理解する角度、事物を観察する能力等の方面において質の違いがあるというべきだ。青年の段階の思想は、青少年段階より各方面においてみなずっと成熟しずっと理性的であるはずである。ゆえに、大学の中では学生の各種の活動に焦点を合わせてできるだけ成熟し、大学生の年齢段階に適應させ、それにより大学生たちに自分は大学生であるといたところで感じさせるべきである。

3. 大学は主に教学の実験基地である。よって、大学内では定期的に教学実践方面の検討会、交流会、教学見学会を開くべきである（この形式は非常勤講師に対する教学見学を含むべきである。なぜならば大学では非常勤講師が一定の数量のコース内あるいは共通科目の教学任務を担当しているからである）。コース内では定期的に教学の交流会を開き、主に学生たちの学習状況、教学困難点が生じる原因と解決方法等を意見交換する必要がある。大学教師は皆自己の専門の研究範囲を持ち、知識財産権の保護を受けてもいるけれども、しかし、一つの大学あるいは一つのコースはみな個人から成る総体で、私たちが学生に教授するのは一つの全体的な知識系統である。よって、教える知識系統の完全性を保証するために、私たちはコースでは当然教学方面の意思疎通を図るべきである。それによって長所をもって短所を補い、お互いに得るところがあり、共同で教学を良いものにしていくのに役に立つ。
4. 大学はいっそう教師と学生間の交流、協調と理解を強化すべきである。同時に教師としての本分から言えば、教学のなかで職責を果たし、教えるだけで教学效果にかまわず、学生の学習効果にかまわないという点を克服しなければならない。授業中学生の行為にまかせるのは（すなわち、学生が遅刻する、早退する、教室外に電話をかけに走る、教室内でメールを出す、本授業の内容と無関係の事あるいは別の科目の宿題をする、寝る、おしゃべりをする等の行為）見て見ぬふりをする、聞いて聞かぬふりをするという職務上の怠慢である。甚だしくは数ヶ月に渡って教えていながら、教えている学生の名前すら言えない教師もいるのは、許すべからずと言うべきである。当然、これらの授業中の態度に対して、コース内の教師はやはり基本的に批判と指導を行うことができる。何人かの非常勤講師は高度に重視し、いっそう職責をまっとうすべきである。
5. 大学の名声と良い評判を維持し、造りあげるには多種の要素がある。その中で、教学経験を持ち、影響力と呼びかけ力を持ち、社会的地位があり、知識構造が豊富な教師を多く持つことは不可欠の要素の一つである。一団一団と優秀な学生を養成することはいっそう不可欠の要素の一つである。よって、教師の集団を安定させ、さらに多くの優秀な教師を吸収し取り込み、さらに多くの優秀な学生を養成する仕事はいっそう強化しなければならない。みなさんは以下のことを分かるべきである。多くの優秀な学生が卒業後社会に入るが、彼らの本学に対する宣伝力は、お金を払ってメディアで何度も宣伝する効果の大きさに匹敵する。よって、私たちはよりいっそう優秀な学生を養成する力量を増し、いっそう優秀な学生を輩出するのを勝ち取らなければならない。

#### 参考文献

- 1、《对外汉语教学难点问题研究与对策》  
出版社：厦門大学出版社 著者：朱芳华
- 2、《日本人汉语学习研究》  
出版社：北京大学出版社 著者：王顺洪
- 3、《现代汉语教程》  
出版社：湖南師範大学出版社 主編：吴启主
- 4、『中国語教育とコミュニケーション能力の育成』  
出版社：東方書店 著者：胡玉華